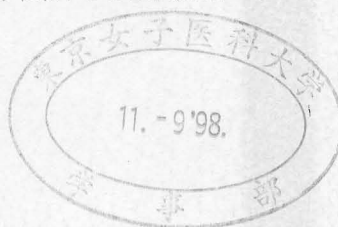


平成10年度 Block 6

課題 No. 6

「家族の悩み」

無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意下さい。



課題シート1

平松徳造さん82歳は、今年の2月に脳梗塞で倒れ入院しました。急に言葉が喋れなくなり、右手右足が動かなくなったからです。入院後、点滴が開始され、1週間は意味のある言葉を発することのできなかつた平松さんですが、2週間たったころには鉛筆を時計と言ったり物の名前を取り違えるものの、声を出して物を訴えることができるようになりました。

息子のIさん(52歳)は父親の言葉は完全に元にもどるのかしら、不自由な右手右足が満足に動くようになるのか心配になってきました。(今後の見通しについて主治医に尋ねてみようと思いました。)

課題シート2

あなたは老人科の医師です。Iさんから父親の今後の見通しについて尋ねられました。あなたはIさんに「急性期には、主に救命のための治療が行われたわけです。あなたのお父さんは発症2週間目に入ったところなので、後遺症についてはもう少し後にならなければはっきりわかりません。」と説明しました。

Iさんは言葉や手足の不自由な父親を見て、自分も父親のような脳梗塞にならないためにはどのように予防したらよいのか心配になってきました。そう言えば父親には、中年になってから糖尿病や高血圧があったことを思い出し、(自分の血糖値や血圧の値が気になりはじめました。)

## 課題シート3

徳造さんはリハビリテーションを開始しました。いきなり歩行訓練では無理なので、ベッド上で座位を保持したり、あるいはベッドわきに座って足を床に下ろす練習を始めました。

そんなある日、主治医であるあなたは、診療部長から入院2ヶ月を経過した段階で、もし自宅に帰れる状況でなければ、老人病院か老人保健施設に転院してもらうように本人と家族に話すように言われました。(あなたはなぜ2ヶ月したら転院させなければならぬか疑問に思いました。)

家族にその旨話したところ、「家族としてはできることならあと2ヶ月おいてほしいです。病院にいればもっと良くなると思いますから。」と頼まれましたが、(あなたは「徳造さんの病状は落ち着いており、あとはリハビリテーションが主体になるので、そのような病院か施設に転院しましょう。」と繰り返し説明しました。)

## 課題シート4

病院のベッドに寝ている父親がふと寂しそうな顔をするのを見て、Iさんは自宅で徳造さんの面倒をみることに本人にとって幸せなのかなと思い始めました。そのことに関してIさんは妻のSさん(46歳)とも相談してみました。しかし、IさんもSさんも夫妻共働きであり、どちらかが会社を辞めなければならないのかと悩み始めました。徳造さんの妻の松子さんも78歳で高血圧の持病があり、あまり頼りになりません。

在宅介護について相談にのってくれる窓口がないのかしらとケースワーカーに相談してみました。(もし在宅でホームヘルパーや訪問看護を依頼すれば、一体いくらぐらい費用がかかるのか心配になりました。)